

**2014年12月期
決算説明会**

協和発酵キリン株式会社

2015年2月2日

Business overview

代表取締役社長 花井 陳雄

Financial review

取締役 常務執行役員 立花 和義

R & D review & Topics

代表取締役社長 花井 陳雄

Q & A session

本資料には、当社（国内外の連結子会社を含む）の見通し、目標、計画などの将来に関する記述が含まれています。これらの将来に関する記述は、当社が現時点において入手している情報、予測をもとになされた当社の合理的な判断に基づくものですが、実質的にこれら記述とは大きく異なる結果を招く不確実性を含んでいます。

これら不確実性には、国内外製薬業界の事業活動に潜在するリスク、知的財産権にかかるリスク、副作用に関するリスク、法的規制リスク、製品の欠陥等の発生リスク、原燃料価格の変動リスク、製品市況価格の変動リスク、為替・金融市場の変動リスクなどが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

本資料には、医薬品（開発中の製品を含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

Business overview

事業環境が変化する中、中計基本戦略に基づき着実に前進

- 2014年4月の薬価基準引下げ
- 主力製品「アロック®」、「گران®」等で後発医薬品、バリエーション製品の影響拡大
- 新薬「ドボベット®」、「ジーラスタ®」の承認・発売
- ProStrakan社によるArchimedes社の買収
- Mogamulizumab の腫瘍免疫療法における開発提携契約
- Syndax社から HDAC阻害剤 Entinostat 導入

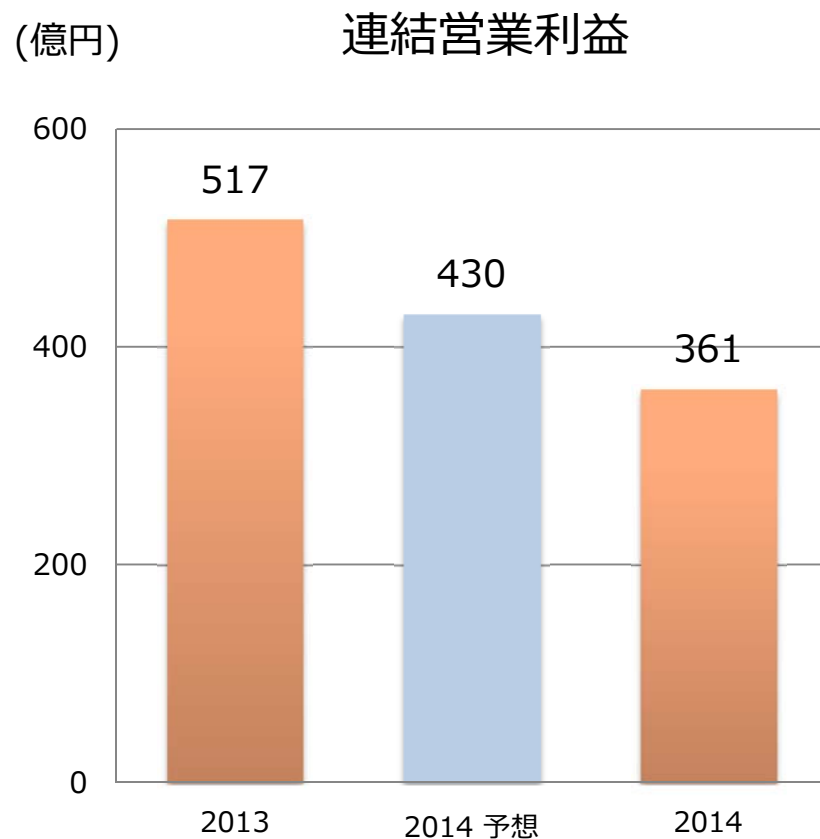
4月の薬価基準引下げの影響や研究開発費の増加により減収減益

(単位：億円)	2013年 実績	2014年 実績	差異
売上高	3,406	3,334	△71 (△2%)
営業利益 [営業利益率]	517 [15.2%]	361 [10.8%]	△156 (△30%)
経常利益	495	295	△199 (△40%)
当期純利益	300	158	△141 (△47%)

- ✓ 経常利益の減益要因は、営業利益の減益のほか、持分法投資損失の増加等
- ✓ 当期純利益の減益要因は、前期計上の関係会社株式売却益等がなくなった影響等

(記載金額は表示単位未満を切り捨て。 利益はのれん償却後利益で記載)

当期業績予想に比して影響を与えた主な要因



期初からの減益要因

- ・長期収載品に対する後発医薬品の影響
- ・新薬の市場浸透の遅れ

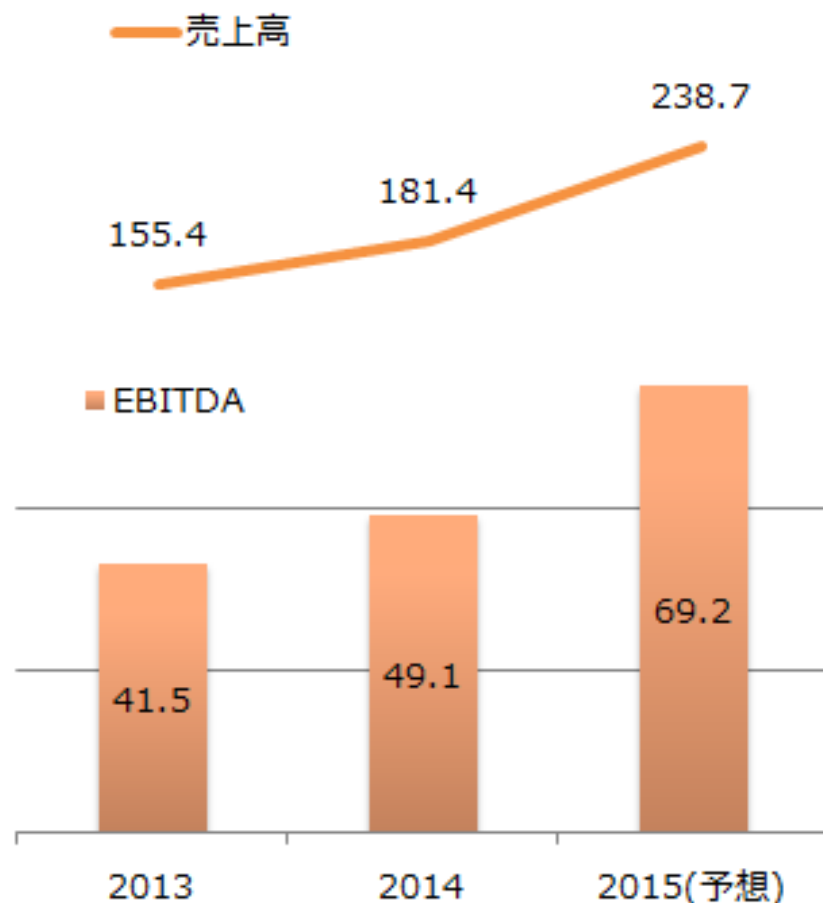
当期第3四半期決算からの減益要因

- ・Entinostat 導入に伴う一時金の発生
- ・早期上市に向けた海外開発への投資
- ・未消化を見込んだ販管費予想と実績の差

GSPの実現に向けた海外の基盤拡充はPSKを軸に推進

ProStrakan の業績推移

(百万ポンド)



好調を牽引する成長ドライバー3製品

	2014年	2015年予想
Abstral®	£ 55.8M	£ 59.6 M
PecFent®	£ 7.5M	£ 23.3 M
Sancuso®	£ 14.0M	£ 17.0 M

海外売上比率 (医薬事業)

2014年	2015年予想
22%	26%

Financial review

4月の薬価基準引下げの影響や研究開発費の増加により減収減益

(単位：億円)	2013年 実績	2014年 実績	差異
売上高	3,406	3,334	△71 (△2%)
営業利益 [営業利益率]	517 [15.2%]	361 [10.8%]	△156 (△30%)
経常利益	495	295	△199 (△40%)
当期純利益	300	158	△141 (△47%)

- ✓ 経常利益の減益要因は、営業利益の減益のほか、持分法投資損失の増加等
- ✓ 当期純利益の減益要因は、前期計上の関係会社株式売却益等がなくなった影響等

(記載金額は表示単位未満を切り捨て、利益はのれん償却後利益で記載)

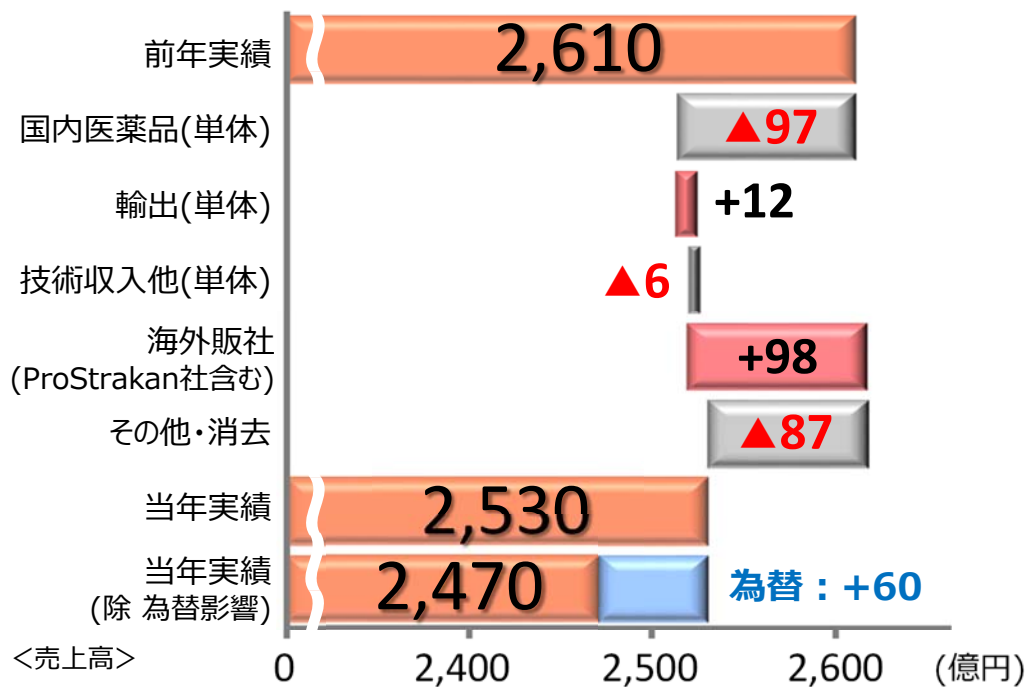
医薬は、薬価基準の引下げ・研究開発費の増加により減収減益
 バイオケミカルは、医薬品原薬の伸長・為替の円安進行で増収増益

(単位:億円)		2013年 実績	2014年 実績	差異
医薬事業	売上高	2,610	2,530	△79 (△3%)
	営業利益 [営業利益率]	461 [17.7%]	290 [11.5%]	△170 (△37%)
バイオケミカル事業	売上高	829	839	10 (+1%)
	営業利益 [営業利益率]	56 [6.8%]	72 [8.7%]	16 (+28%)

(記載金額は表示単位未満を切り捨て、 営業利益はのれん償却後利益で記載)

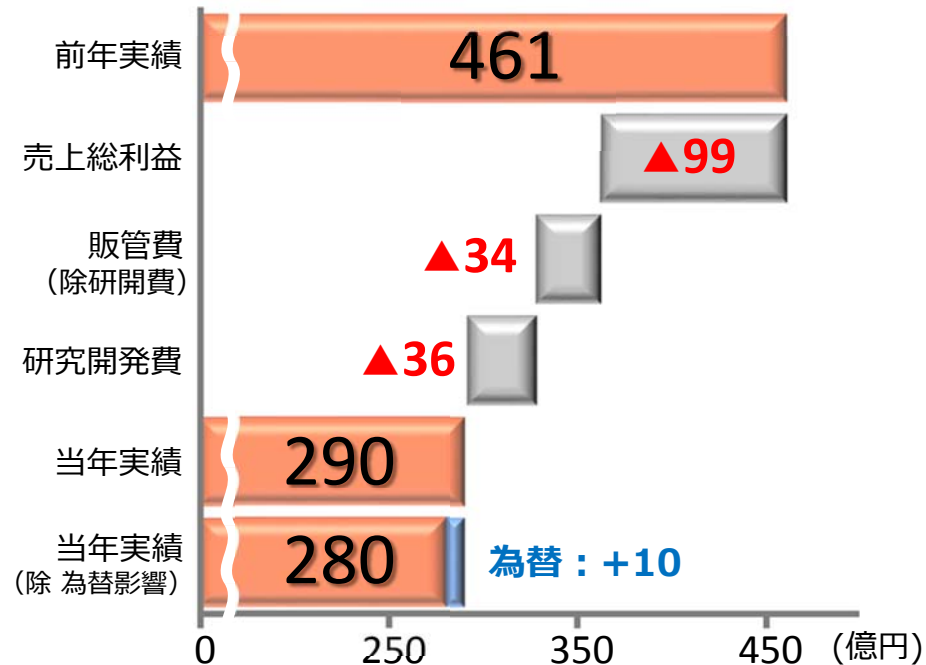
医薬事業：2014年 決算概況 前年比損益分析

〔売上高 前年比増減〕



- 国内医薬品 (▲97億円) :
 - ・品目 (荷送) : ノリアスト+22,レグパラ+11,トホベット+11,アルロック▲40,エール▲34, グラシ▲31
 - ・ネスプ : 薬価基準引下げの影響を受けるも、12年末発売の液量統一品の出荷反動減のあった前年を維持。シェアも変動なし
- 輸出 (+12億円) : 為替影響など
- 技術収入他 (▲6億円) : 為替影響+6億円
 - ・バイオシミラー関連 (+10)
 - ・前年のアルフェクス開発・販売権の返還に係る一時金の減少 (▲21) など
- 海外販社 (+98億円) : 為替影響+49億円
 - ・ProStrakan社 のAbstral等の伸長、Archimedes社連結の影響など+80億円
- その他・消去 (▲87億円)
 - ・連結子会社・千代田開発の前年9月の化学品物流事業譲渡等による減少 (▲42)
 - ・BioWaの技術収入の減少 (▲22) など

〔営業利益 前年比増減〕



＜営業利益＞

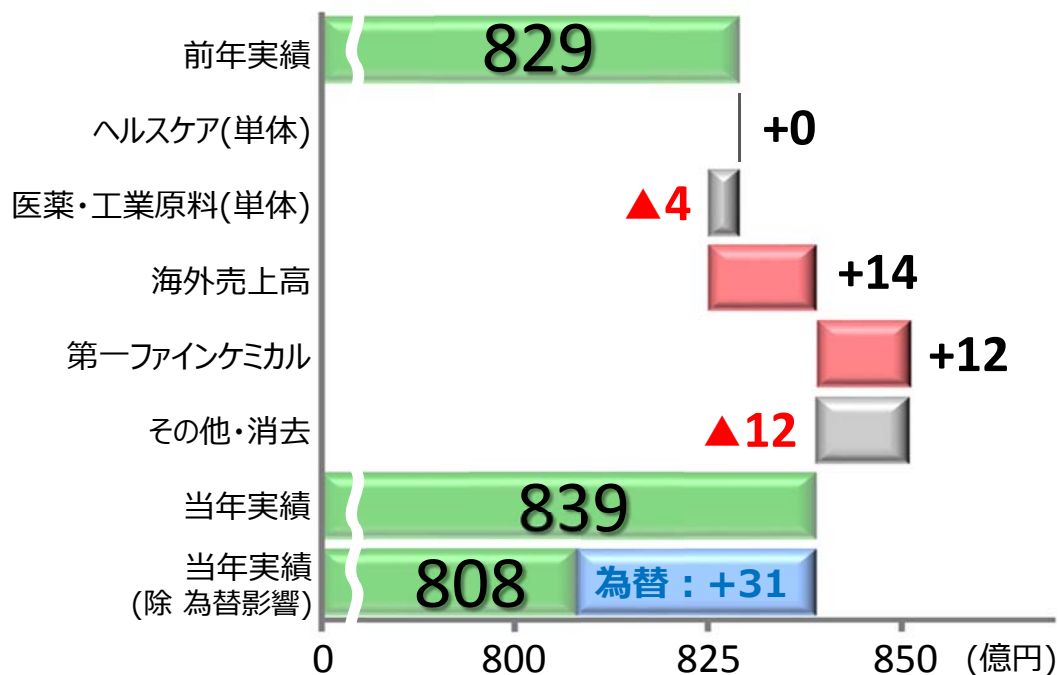
- 売上総利益 (▲99億円) :
 - ・薬価基準引下げの影響と長期収載品の後発医薬品浸透による売上減、前年のアルフェクスの開発・販売権の返還に係る一時金の減少などの減益要因を、バイオシミラー関連の技術収入の増加、ProStrakan社の伸長などで補えず
- 販管費 (▲34億円) :
 - ・協和発酵キリン単体の販管費などが減少要因となるものの、ProStrakan社によるArchimedes社連結の影響などで費用増
- 研開発費 (▲36億円) :
 - ・Syndax社からのEntinostat導入費用、海外開発費用の増加など

薬価基準の引下げや後発医薬品の市場浸透の影響
長期収載品のアレロック®やグラン®で顕著

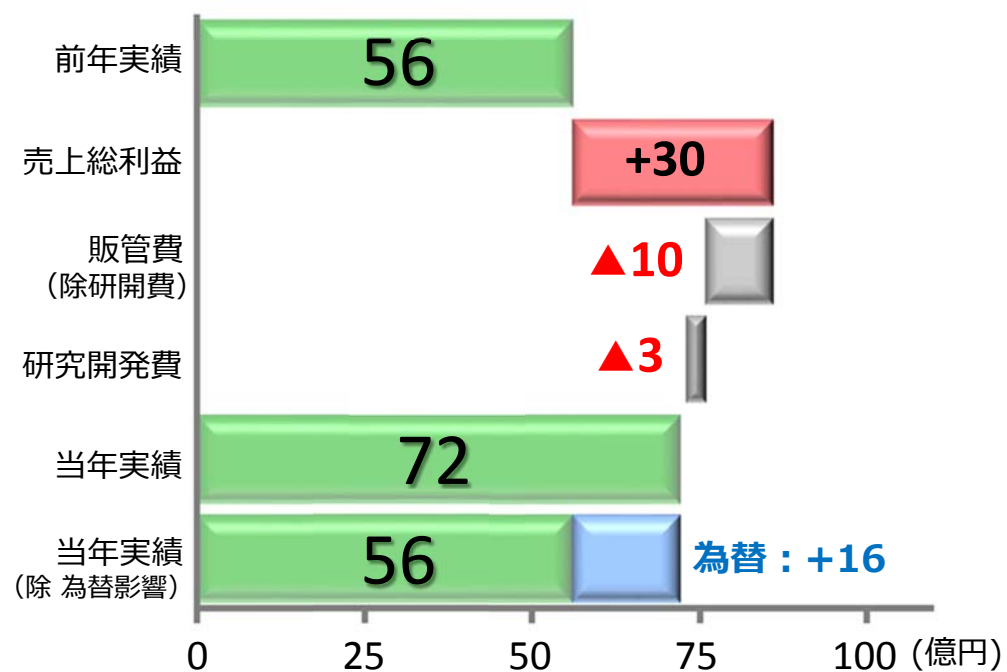
製品名 他	2013年 実績	2014年 実績	前年比	増減要因	2014年 予想*	予想比 (達成率)
ネスブ®	560	553	△7 (△1%)	薬価基準引下げ	549	4 (101%)
レグパラ®	151	163	11 (+8%)	順調に市場浸透	160	3 (102%)
アレロック®	276	236	△40 (△14%)	花粉飛散量減少、薬価基準引下げ 後発医薬品の市場浸透	235	1 (100%)
パタノール®	134	118	△15 (△11%)	花粉飛散量減少	117	1 (101%)
グラン®	124	92	△31 (△25%)	薬価基準引下げ バイオ後続品の市場浸透	85	7 (108%)
輸出	104	116	12 (+11%)		109	7 (106%)
技術収入	153	139	△13 (△8%)	前年はガスフェクス返還等に伴う技術 収入という特殊要因あり	141	△2 (99%)

*：直近の2014年売上高予想に対する達成率

〔売上高 前年比増減〕



〔営業利益 前年比増減〕



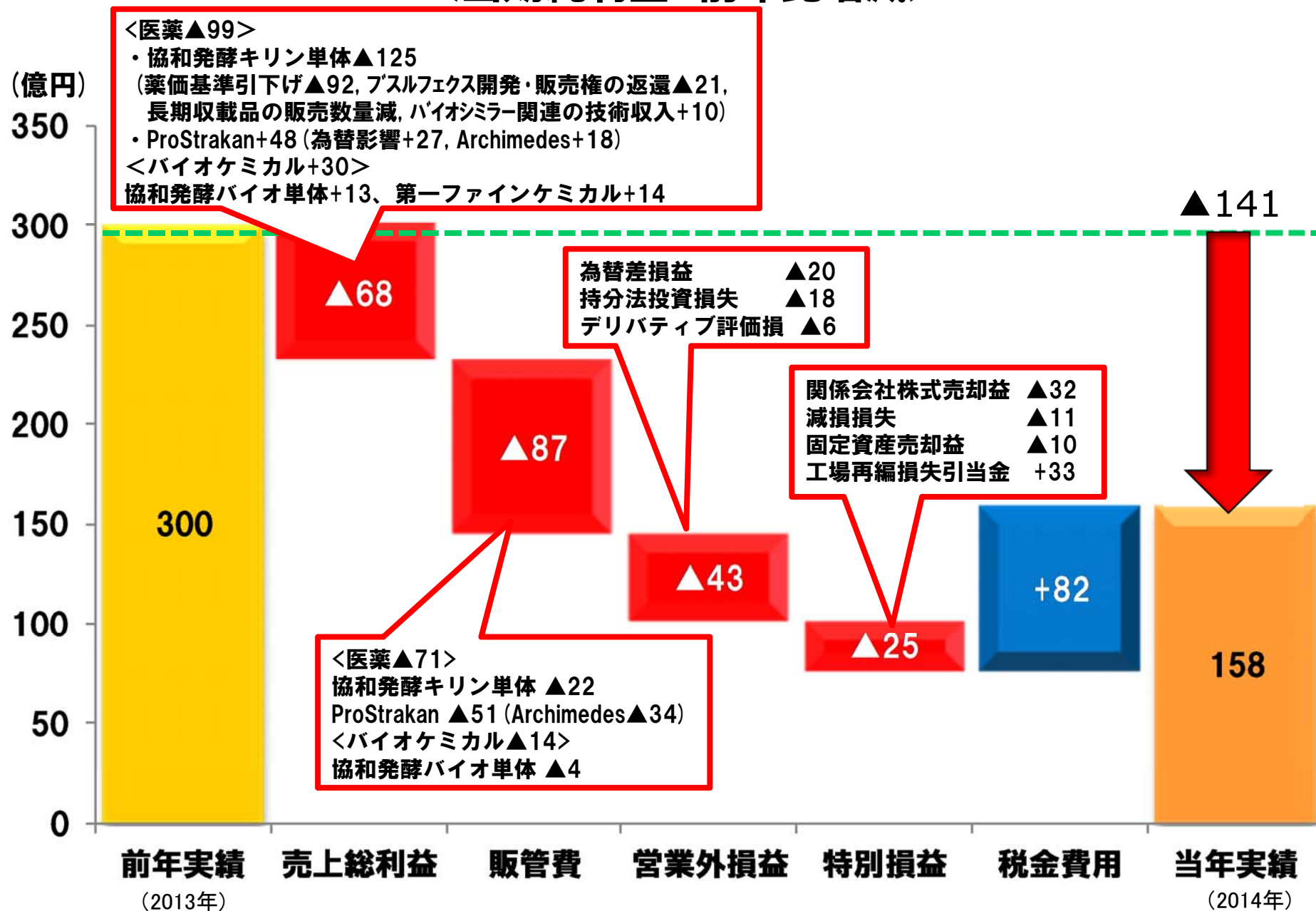
<売上高>

- ヘルスケア (+0億円) :
 - ・通信販売は、堅調に推移し、前年を上回る
 - ・原料/OEMは、主要顧客の販売数量減をカバーするために市場開拓を進めたが補えず、加えて夏場の天候不順により飲料用途も販売数量減
- 医薬・工業用原料 (▲4億円) : アミノ酸大口顧客の在庫調整等により前年を下回る
- 海外売上高 (+14億円) : 為替影響+31億円
 - ・米国 (+2) : 為替影響 (+7) ,一部顧客の販売低迷による輸液用アミノ酸の減少など
 - ・欧州 (+14) : 為替影響 (+14) ,一部顧客における輸液用アミノ酸の需要修正の影響など
 - ・アジア・その他 (▲2) : 為替影響 (+10) ,中国での顧客の薬事規制対応による輸液用アミノ酸の生産減少や、医療用アミノ酸の顧客における在庫調整など
- 第一ファインケミカル (+12億円) : 医薬品原薬の販売数量増など

<営業利益>

- 売上総利益 (+30億円) : 為替影響+20億円
 - ・海外販社の利益率の高い製品の販売増など
 - ・第一ファインケミカルの事業構造改革の進展 など
- 販管費 (▲10億円) : 為替影響▲3億円
 - ・通信販売におけるシステム投資など

<当期純利益 前年比増減>



新製品の市場浸透に注力、持続的なキャッシュ創出
事業価値の向上に向けた研究開発費の投資継続

(単位：億円)	2014年 実績	2015年 予想	差異
売上高	3,334	3,540	205 (+6%)
営業利益 [営業利益率]	361 [10.8%]	415 [11.7%]	53 (+15%)
経常利益	295	340	44 (+15%)
当期純利益	158	185	26 (+16%)

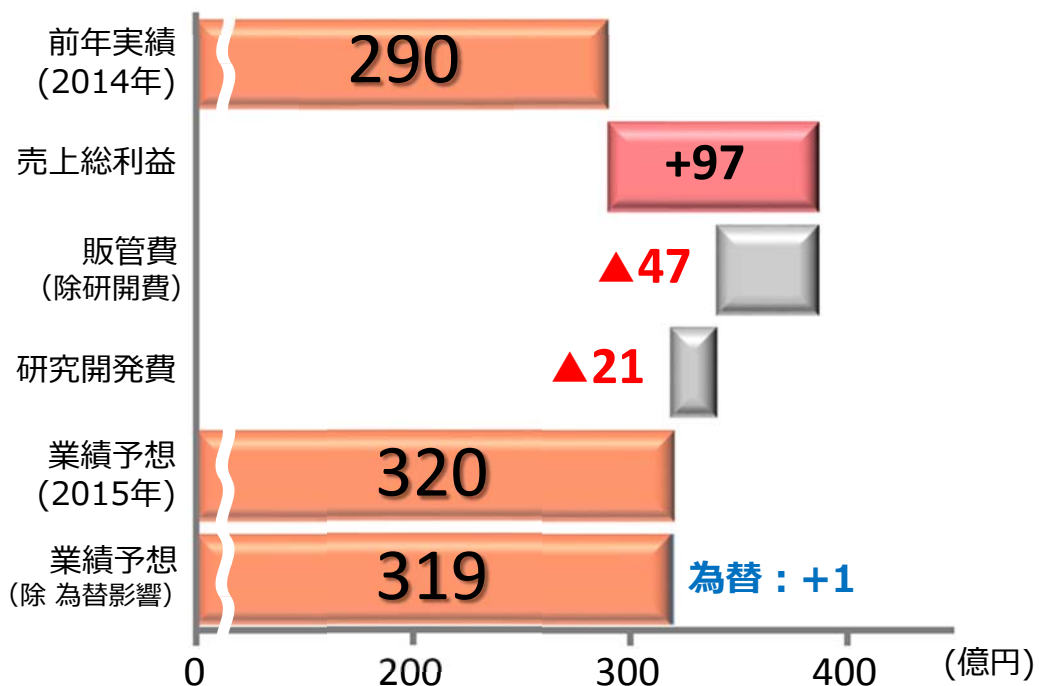
(記載金額は表示単位未満を切り捨て、利益はのれん償却後利益で記載)

2015年 医薬事業の業績予想

KYOWA KIRIN

(単位：億円)	2014年 実績	2015年 予想	差異
売上高	2,530	2,700	169 (+7%)
営業利益 [営業利益率]	290 [11.5%]	320 [11.9%]	29 (+10%)

〔営業利益 前年比増減〕



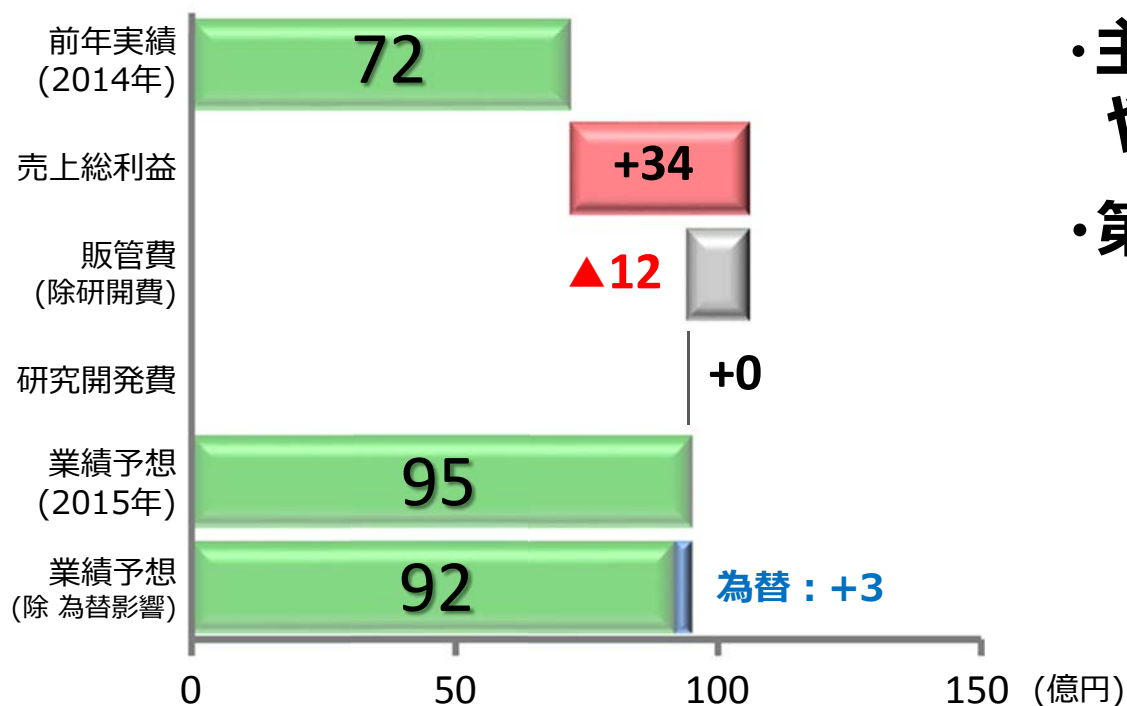
- ・ジールスタ®、ドボベット®等の新製品を軸に販売数量増加
- ・Archimedes社の通年寄与
- ・研究開発費の増加



2015年 バイオケミカル事業の業績予想

(単位：億円)	2014年 実績	2015年 予想	差異
売上高	839	890	50 (+6%)
営業利益 [営業利益率]	72 [8.7%]	95 [10.7%]	22 (+31%)

〔営業利益 前年比増減〕



- ・主力のアミノ酸・核酸関連物質やルニソ等の販売数量の増加
- ・第一ファインケミカル社の収益改善



企業価値の最大化 = 株主価値の最大化

グローバルCMS（円・ドル・ポンド・ユーロ）

グループ全体の資金効率化と為替リスク低減

2013年 欧米子会社に導入



2014年 アジア(香港/シンガポール)へ拡大

株主還元の方針

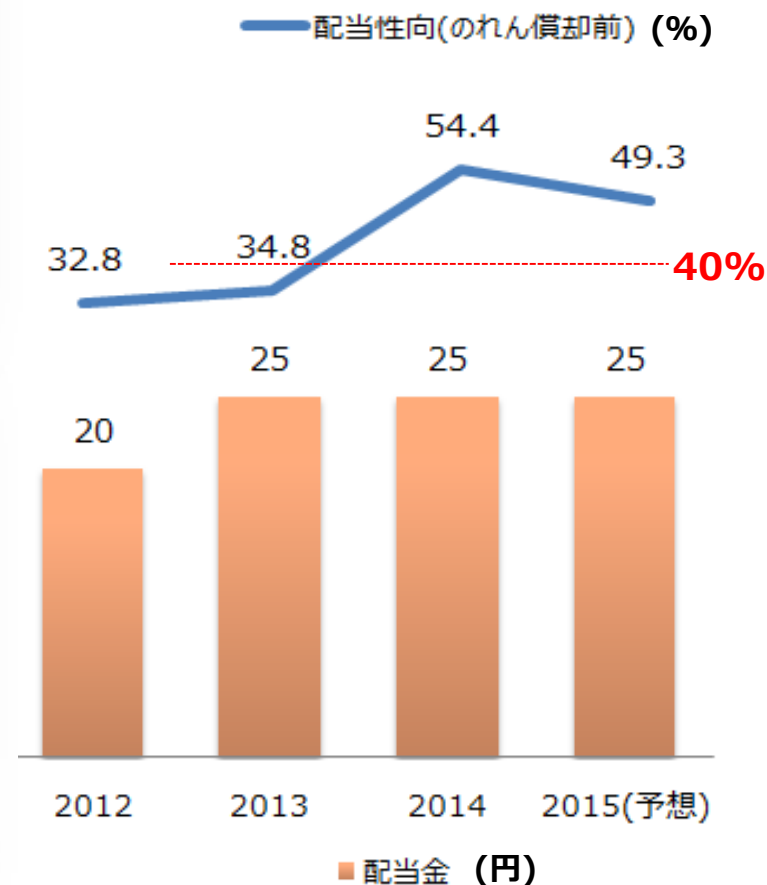
配当性向

のれん償却前利益に対し40%を目途に
安定的な配当

自己株取得

市場環境/財務状況を踏まえ機動的に実施

配当金/配当性向



注：「のれん償却前」とは、2008年4月の逆取得(キリンファーマ株との株式交換)に伴うのれん償却額を差し引く前の利益金額。

R & D review

- ☑ 抗CCR4ヒト化抗体「ポテリジオ®」の適応追加承認
 - ・初発未治療のCCR4陽性の成人T細胞白血病リンパ腫（12月）
 - ・再発又は難治性のCCR4陽性の末梢性T細胞リンパ腫（3月）
 - ・再発又は難治性のCCR4陽性の皮膚T細胞性リンパ腫（3月）
- ☑ 持続型G-CSF製剤「ジーラスタ®」の発売（11月）
- ☑ 「ネスフ®」は、骨髄異形成症候群に伴う貧血で希少疾病用医薬品としての指定を受け、3月に製造販売承認を申請し、適応追加承認（12月）
- ☑ 抗IL-5受容体ヒト化抗体 KHK4563 の喘息を対象としたPhase 3 の開始(4月)
- ☑ 尋常性乾癬治療剤「ドボベット®」の発売（9月）
- ☑ 遺伝子組換えアムピシリン製剤 KW-3357 の製造販売承認申請（7月）

KW-0761

適応症		国・地域	開発段階	年間発症例数 他
ATL	未治療	日本	承認 (2014年12月)	日本：約1,100名 ¹⁾
	再発/難治	日本	承認 (2012年 3月)	
ATL	再発/難治	米国/欧州/その他	Phase 2	欧米：調査中 選択基準にCCR4陽性設定なし
PTCL	再発/難治	日本	承認 (2014年3月)	日本(PTCL,CTCL)：約2,000名 ²⁾
PTCL	再発/難治	欧州	Phase 2	米国：約3,600名 ³⁾
CTCL	再発/難治	日本	承認 (2014年3月)	日本(PTCL,CTCL)：約2,000名 ²⁾
CTCL	再発/難治	米国/欧州/日本	Phase 3	米国：約1,500名 ³⁾ 選択基準にCCR4陽性設定なし
固形がん		米国	Phase 1	MEDI4736/Tremelimumabとの併用 試験をAstraZeneca社と共同で実施

1)：山口一成 本邦におけるHTLV-1感染及び関連疾患の実態調査と総合対策.平成21年度総括研究報告書：(平成22年3月)

2)：厚生労働省:平成23年10月患者調査 閲覧第97表 総患者数、傷病基本分類別

3)：SEER Data (2001-2007)

KW-6002

適応症	国・地域	開発段階	年間発症例数 他
パーキンソン病	北米/欧州 その他	Phase 3	米国：治療対象患者数 約57万人以上 ¹⁾ Special Protocol Assessment に基づくFDAとの合意

KRN23

適応症	国・地域	開発段階	患者数 他
XLH	米国 欧州	Phase 2 (対象:小児)	米国 ²⁾ ：小児 約3,000名、成人 約12,000名 ³⁾ Ultragenyx Pharmaceutical との共同開発
XLH・骨軟化症	米国 カナダ	Phase 1 / 2 (対象:成人)	
XLH・骨軟化症	日本 韓国	Phase 1 (対象:成人)	

1) : Decision Resources社 による調査

2) : 欧州（主要 5 カ国）の患者数は米国と同程度と推定

3) : 本疾患は、20,000人に一人程度の割合で発症するといわれており、これに基づき推定

期初の計画通り、各プロダクトは開発が順調に進展

	開発番号	先行品（製品名）	ステージ	国/地域
バイオシミラー	FKB327	アタリムマブ（ヒュミラ）	Phase 3	米国、その他
バイオシミラー	FKB238	ハバシズマブ（アバスチン）	Phase 1	英国
バイオシミラー	非開示	非開示	品目決定	

注：バイオシミラー医薬品は、協和キリン富士フイルムバイオロジクス株式会社が開発

Topics

- 1. 腫瘍免疫療法における Mogamulizumab**
- 2. ジーラスタ® が目指す新たな市場形成**
- 3. がんカテゴリーの更なる強化に向けて**

自社創薬した抗CCR4抗体 Mogamulizumab 本剤の日本における製品名は「ポテリジオ®」

- ・強活性抗体作製技術「ポテリジェント」を活用した世界初の抗体医薬品
- ・日本で承認されている適応症は CCR4 陽性の造血器腫瘍
 - 成人T細胞白血病リンパ腫
 - 再発または難治性の皮膚T細胞性リンパ腫
 - 再発または難治性の末梢性T細胞リンパ腫
- ・欧米では、造血器腫瘍を対象に臨床開発を自社で推進

近年、腫瘍免疫編集機構という新しい概念に基づいたがん治療「腫瘍免疫療法」に注目

CCR4を発現している制御性T細胞は、免疫反応の抑制に寄与



腫瘍免疫療法における新たな可能性をもつ Mogamulizumab
開発提携契約に基づき固形癌を対象とした探索試験を加速

AstraZeneca 

MedImmune 

MEDI4736

Tremelimumab



PF-05082566

 小野薬品工業株式会社

 Bristol-Myers Squibb

Nivolumab

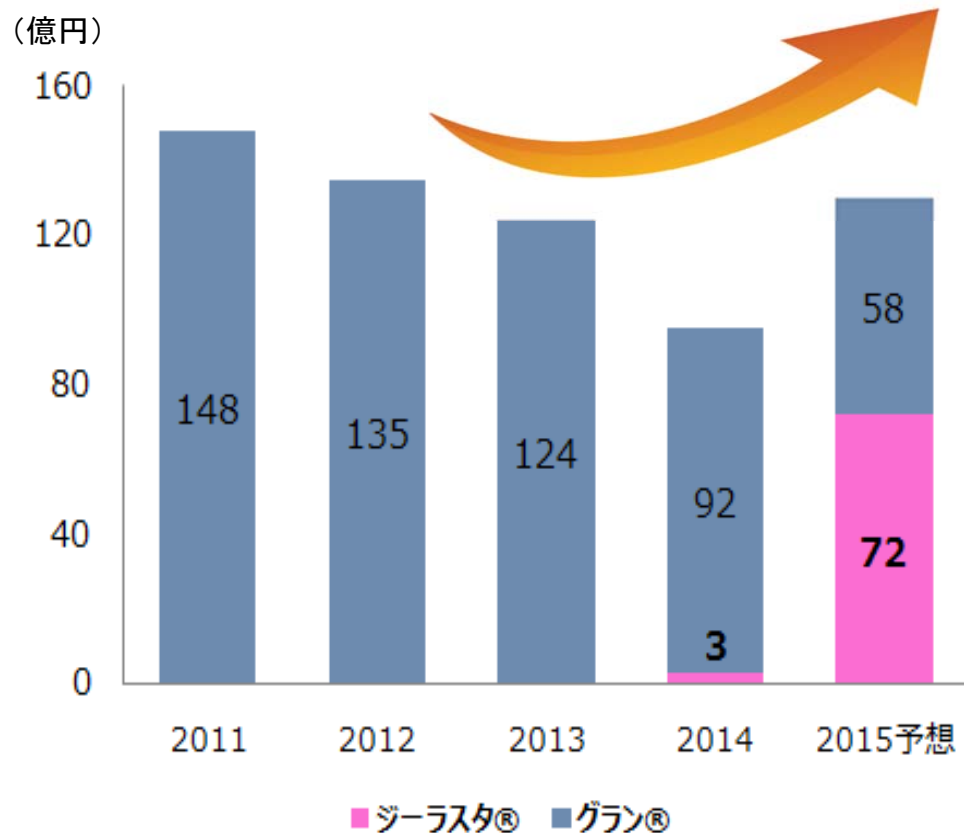
KYOWA KIRIN

Mogamulizumab
anti-CCR4

 POTELIGEO® Injection

グラン®の発売から20年以上に亘る医薬品情報の蓄積
ジーラスタ®の新発売にて、この分野での圧倒的リーダーへ

売上高の実績と予想



グラン® シリンジ/注射液
75・150・M300

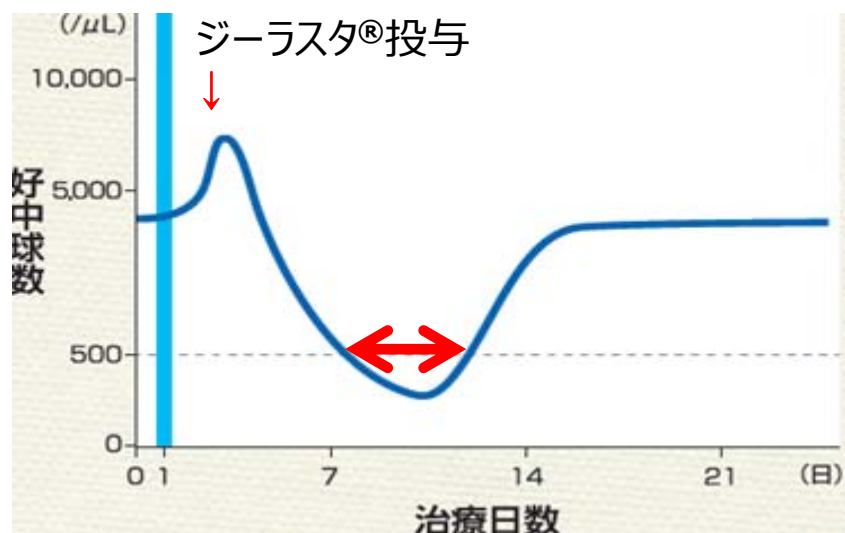
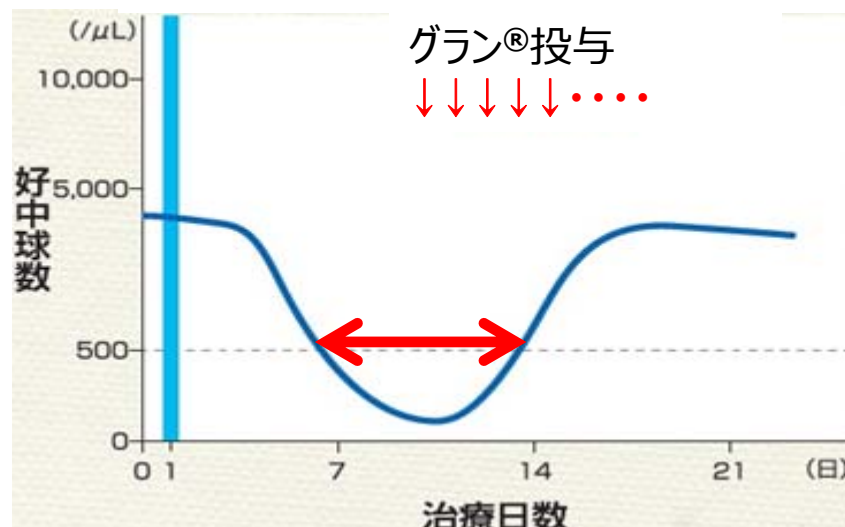
・造血幹細胞移植 等

ジーラスタ® 皮下注 3.6mg

- ・がん化学療法による発熱性好中球減少症の予防
- ・全てのがんに予防投与(好中球が減少する前からの投与)が可能
- ・プラシリンジ製剤
- ・発熱性好中球減少症の発症リスクが高い化学療法や患者さんに対する予防投与

予防的投与という適応症を踏まえ、患者さんや医療従事者に貢献

↓ 抗がん剤治療終了



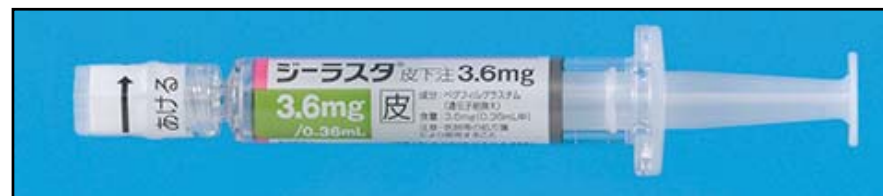
医療上の簡便性：

- 患者さんの投与負担軽減
- 外来化学療法後の通院負担軽減

医療上のメリット：

- 好中球減少症による感染症発症リスク低減
- がん化学療法の投与量やスケジュール遵守が可能

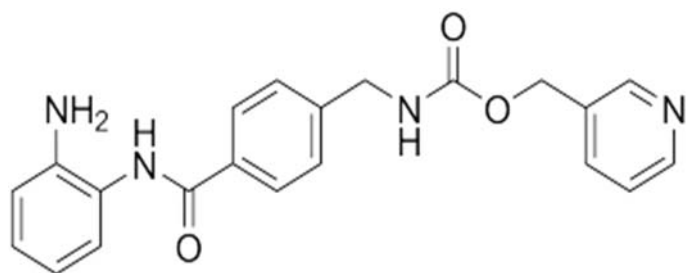
医療現場における貢献



クラス I HDAC 阻害剤 Entinostat のライセンス契約締結

Syndax社との契約概要

- ・締結：2014年12月19日
- ・内容：独占的な開発および販売に関するライセンス契約
- ・地域：日本および韓国
- ・費用：Syndax社の株式購入を含む契約一時金2,500万ドル



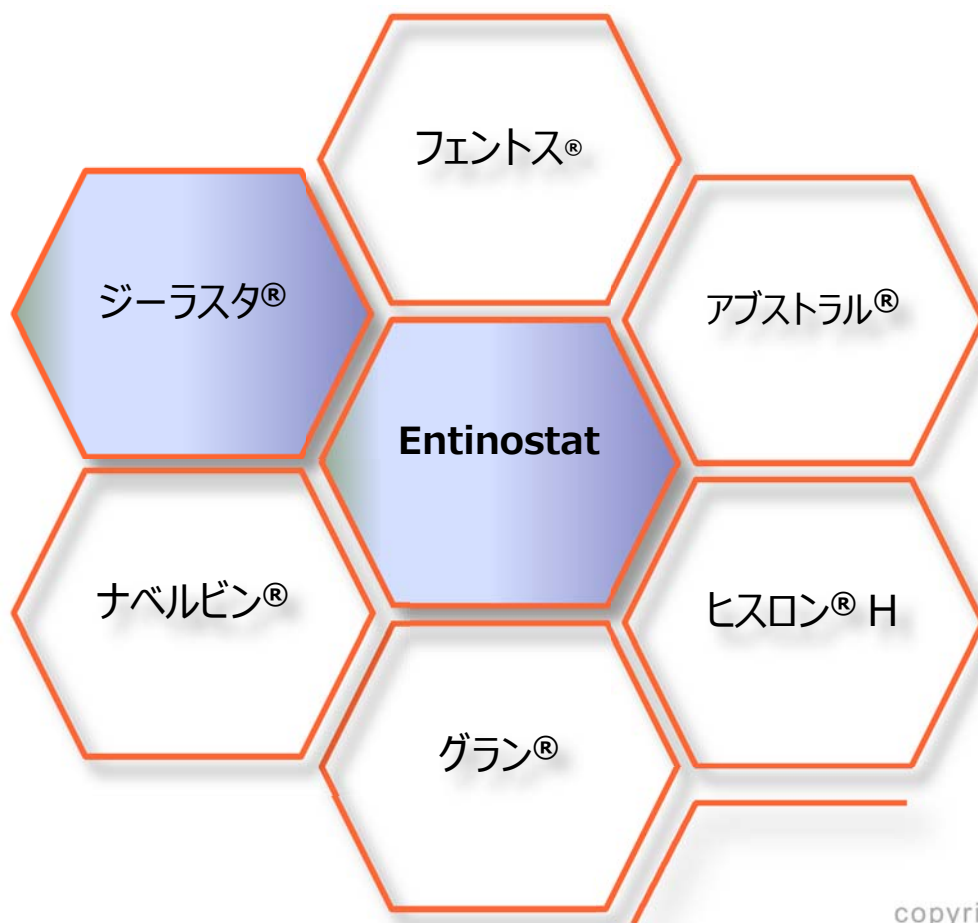
Entinostatの化学構造

Syndax社が実施中の Entinostat のPhase3

- ・対象：ホルモン受容体陽性の転移性乳癌
- ・投与：Entinostat を1週間に1回、経口投与
Exemestane との併用療法
- ・特徴：FDAが Breakthrough Therapy に認定
Special Protocol Assessment を合意

がんカテゴリー におけるシナジーの期待 固形癌を対象に腫瘍免疫療法の併用薬としての可能性

乳癌治療を軸としたシナジー



腫瘍免疫療法

免疫療法の併用薬 Entinostat

- ・免疫反応を抑制するMDSC, T reg に対する効果を期待.



Syndax社は治験を実施中

- ・対象 : NSCLC
- ・投与 : PD-1抗体と併用療法

様々なマイルストーンを2016年に控え、GSPへ向けた進化を加速



注：青字はバイオ医薬品.

2010年～

国内生産拠点再編計画は2017年に完了予定

1) : AstraZeneca 社との開発提携契約に基づいた試験

Q & A session

KYOWA KIRIN

協和発酵キリングroupは、ライフサイエンスとテクノロジーの進歩を追求し、新しい価値の創造により、世界の人々の健康と豊かさに貢献します。

本資料のお問合せ先

協和発酵キリン株式会社

コーポレートコミュニケーション部 IRグループ 03-3282-0009

ATL	Adult T-cell Leukemia/Lymphoma (成人T細胞白血病リンパ腫)
CCR4	Chemokine (C-C motif) Receptor 4
CMS	Cash Management System
CTCL	Cutaneous T-Cell Lymphoma (皮膚T細胞性リンパ腫)
G-CSF	Granulocyte - Colony Stimulating Factor
GSP	Global Specialty Pharmaceutical Company
HDAC	Histone Deacetylase (ヒストン脱アセチル化酵素)
MDSC	Myeloid-Derived Suppressor Cell (骨髄由来抑制細胞)
MRs	Medical Representatives
NSCLC	Non Small Cell Lung Cancer (非小細胞肺癌)
PD-1	Programmed Death -1
PD-L1	Programmed Death - Ligand 1
PPA	Purchase Price Allocation
PSK	ProStrakan
T reg	Regulatory T cell (制御性T細胞)
PTCL	Peripheral T-Cell Lymphoma (末梢性T細胞リンパ腫)
XLH	X-linked Hypophosphatemic Rickets (X染色体遺伝性低リン血症性くる病)

APPENDIX

期中平均の為替レート

平均為替レート	2013年 実績	2014年 実績	前年比	2015年 予想
米ドル(円/USD)	96円	105円	+ 9円	109円
ユーロ(円/EUR)	127円	140円	+13円	139円
英ポンド(円/GBP)	150円	173円	+23円	178円

2014年の為替変動影響額 (前年比)

セグメント	通貨	売上高	営業利益
医薬事業	USドル	+ 8億円	△ 0億円
	ユーロ	+ 1億円	+ 1億円
	英ポンド	+36億円	+ 2億円
バイオミカル事業	USドル	+14億円	+ 9億円
	ユーロ	+15億円	+ 7億円
	英ポンド	- 円	- 円

導入契約に伴う一時金、海外開発の進展に伴う研究開発費の増加

(単位：億円)	2014年 予想	2014年 実績	差異
売上高	3,360	3,334	△26 (△1%)
営業利益 [営業利益率]	430 [12.7%]	361 [10.8%]	△69 (△16%)
経常利益	350	295	△55 (△16%)
当期純利益	180	158	△22 (△12%)

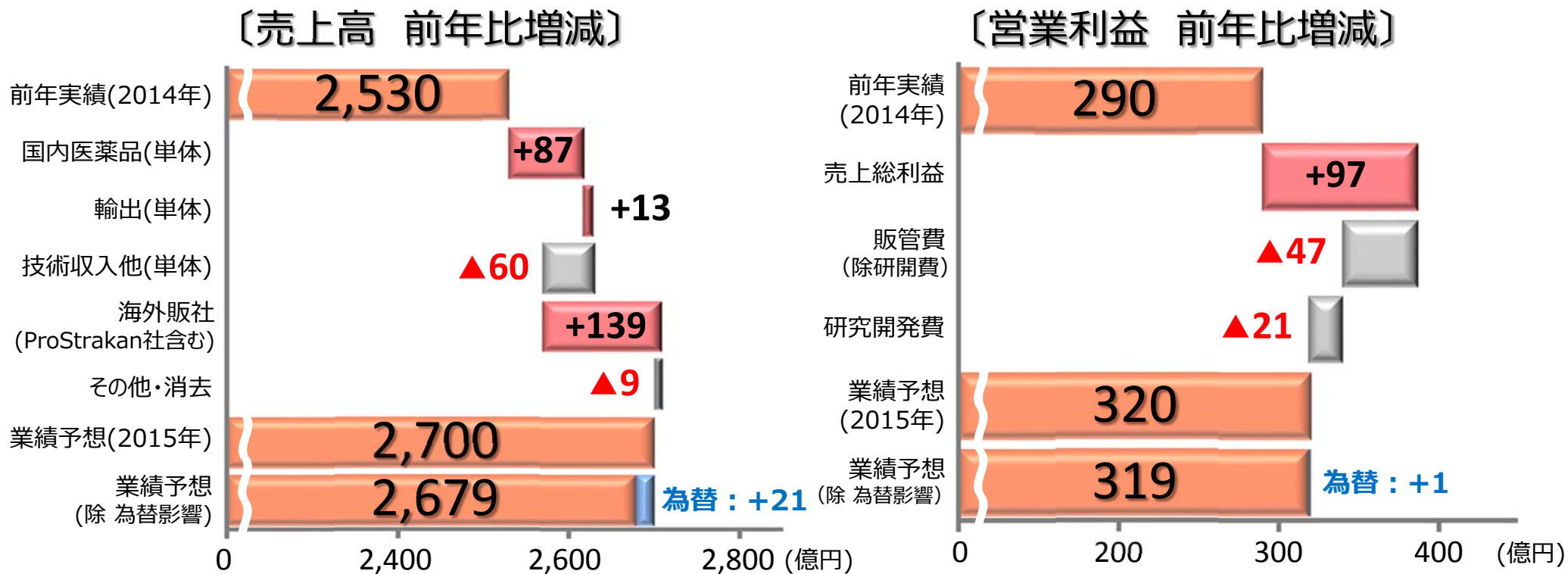
(記載金額は表示単位未満を切り捨て、利益はのれん償却後利益で記載)

医薬は、Syndax社からの導入、積極的な海外開発投資
 バイオケミカルは、アジア/米国を中心にアミノ酸の出荷減

(単位:億円)		2014年 予想	2014年 実績	差異
医薬事業	売上高	2,540	2,530	△10 (△0%)
	営業利益 [営業利益率]	350 [13.7%]	290 [11.5%]	△60 (△17%)
バイオケミカル 事業	売上高	850	839	△11 (△1%)
	営業利益 [営業利益率]	80 [9.4%]	72 [8.7%]	△8 (△9%)

(記載金額は表示単位未満を切り捨て、 営業利益はのれん償却後利益で記載)

補足：医薬事業 2015年 業績予想 前年比損益分析



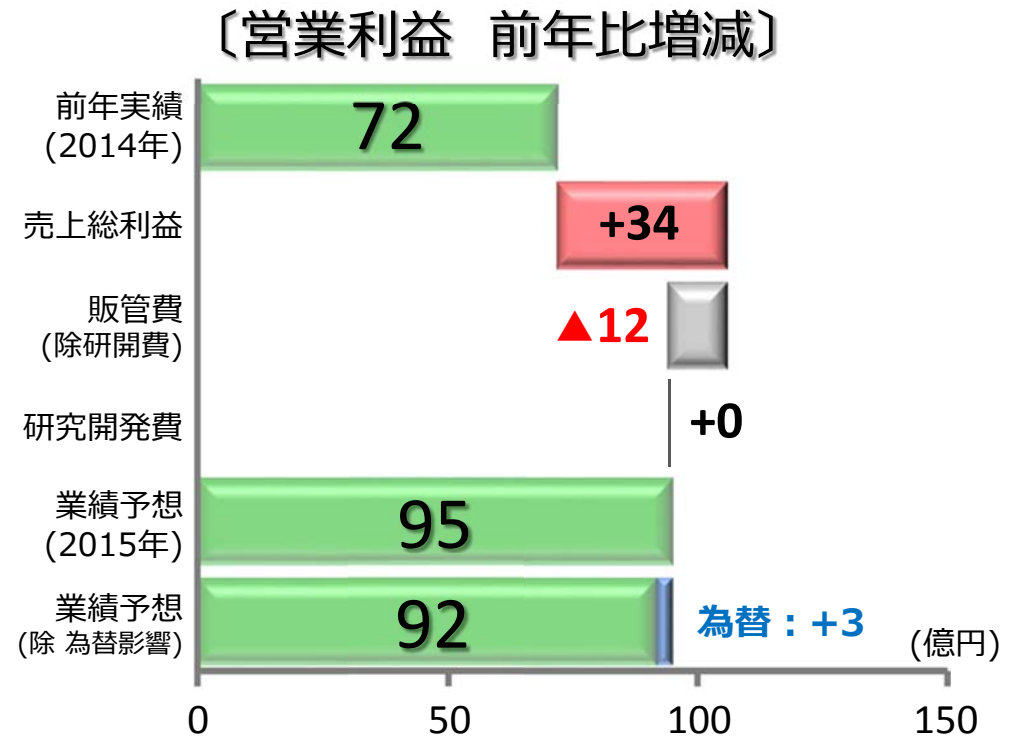
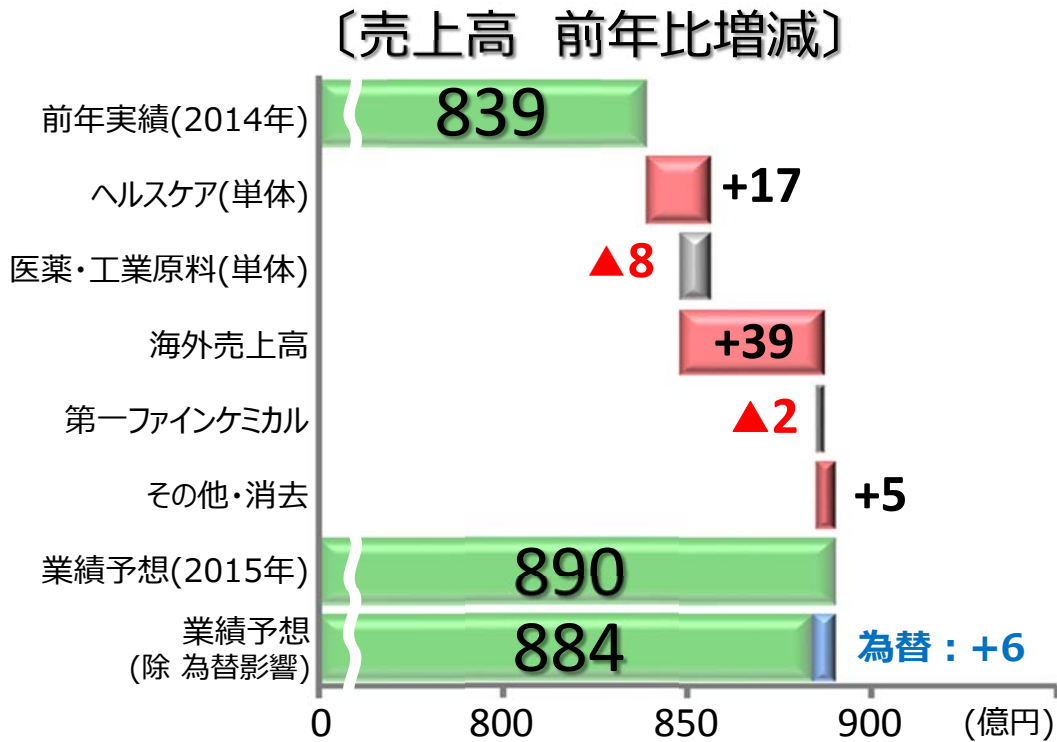
<売上高>

- 国内医薬品 (+87億円) :
 - ・品目 (荷送) : ジーラスタ+68, トボハット+38, オグリザ+33, ノリアスト+28, アルロク▲46, グラン▲33, ニール▲25
 - ・ネスブ : 薬価基準引下げの影響やMDSへの適応拡大を加味し14年実績比101%を目指す。シェアも大きな変動が無いことを想定する
- 輸出 (+13億円) : 15年の堺工場閉鎖に伴うオロパタジンの16年分前倒し出荷など
- 技術収入など (▲60億円) : 為替影響+2億円
 - ・バイオシミラー関連 (▲60) など
- 海外販社 (+139億円) : 為替影響+18億円
 - ・ProStrakan社 のAbstral・Sancuso等の伸長、Archimedes社連結の影響など+111億円

<営業利益>

- 売上総利益 (+97億円) :
 - ・技術収入の減少を、国内医薬品の新薬(ジーラスタ・トボハット・オグリザ・ノリアスト)の市場浸透などと、ProStrakan社 のAbstral・Sancuso等の伸長、Archimedes社連結の影響などで補い、増益を目指す
- 販管費 (▲47億円) :
 - ・Archimedes社連結の影響など
- 研開発費 (▲21億円) :
 - ・海外開発費用の増加など

補足：バイオケミカル事業 2015年 業績予想 前年比損益分析



＜売上高＞

- ヘルスケア (+17億円) :
 - ・通信販売は、販売促進費用の投下により積極的に定期顧客を獲得する
 - ・原料/OEMは、飲料用途やスポーツ向けサプリメント等の拡販を目指す
- 医薬・工業用原料 (▲8億円) : 一部品目の終売などが要因。
- 海外売上高 (+39億円) : 為替影響+6億円
 - ・米国 (+9) : 為替影響 (+3) , 輸液用アミノ酸、健康食品用途のアミノ酸の拡販など
 - ・欧州 (+10) : 為替影響 (▲1) , 輸液用途アミノ酸の拡販など
 - ・アジア・その他 (+19) : 為替影響 (+4) , 中国での顧客の薬事規制対応による輸液用アミノ酸の生産減少からの回復や、医療用アミノ酸の顧客における在庫調整からの回復を見込む
- 第一ファインケミカル (▲2億円) : 後発医薬品原薬の販売数量は減少するが、協和発酵キリン向け医薬品原薬の販売数量は増加

＜営業利益＞

- 売上総利益 (+34億円) : 為替影響+4億円
 - ・海外売上高や通信販売の伸長
 - ・第一ファインケミカルの事業構造改革の進展による売上高営業利益率の改善など
- 販管費 (▲12億円) : 為替影響▲1億円
 - ・通信販売における販売促進費用の積極的な投下など

開始貸借対照表 (取得日 2014年8月5日時点における会計処理)
 - 取得原価の配分 (PPA)による無形資産評価後の貸借対照表 -

(単位 : 百万ポンド)

	諸資産 40.9	諸負債 27.3
	棚卸資産評価アップ 3.6	繰延税金負債 20.4
①個別に償却期間を設定 4.7~17.4年 (均等償却)	無形資産 131.7 (販売権等)	借入金 129.2
②12年で均等償却	のれん 98.8	取得原価 98.1
	償却対象	

企業結合会計処理による損益影響

	2014年下期	2015年 予想(通年)
①無形資産償却額	£ 5.3M	£ 12.0M
②のれん償却額	£ 3.4M	£ 8.2M
③棚卸資産評価アップ	£ 3.6M	-
損益影響計	£ 12.3M	£ 20.2M

ProStrakan

(単位 : 百万ポンド)

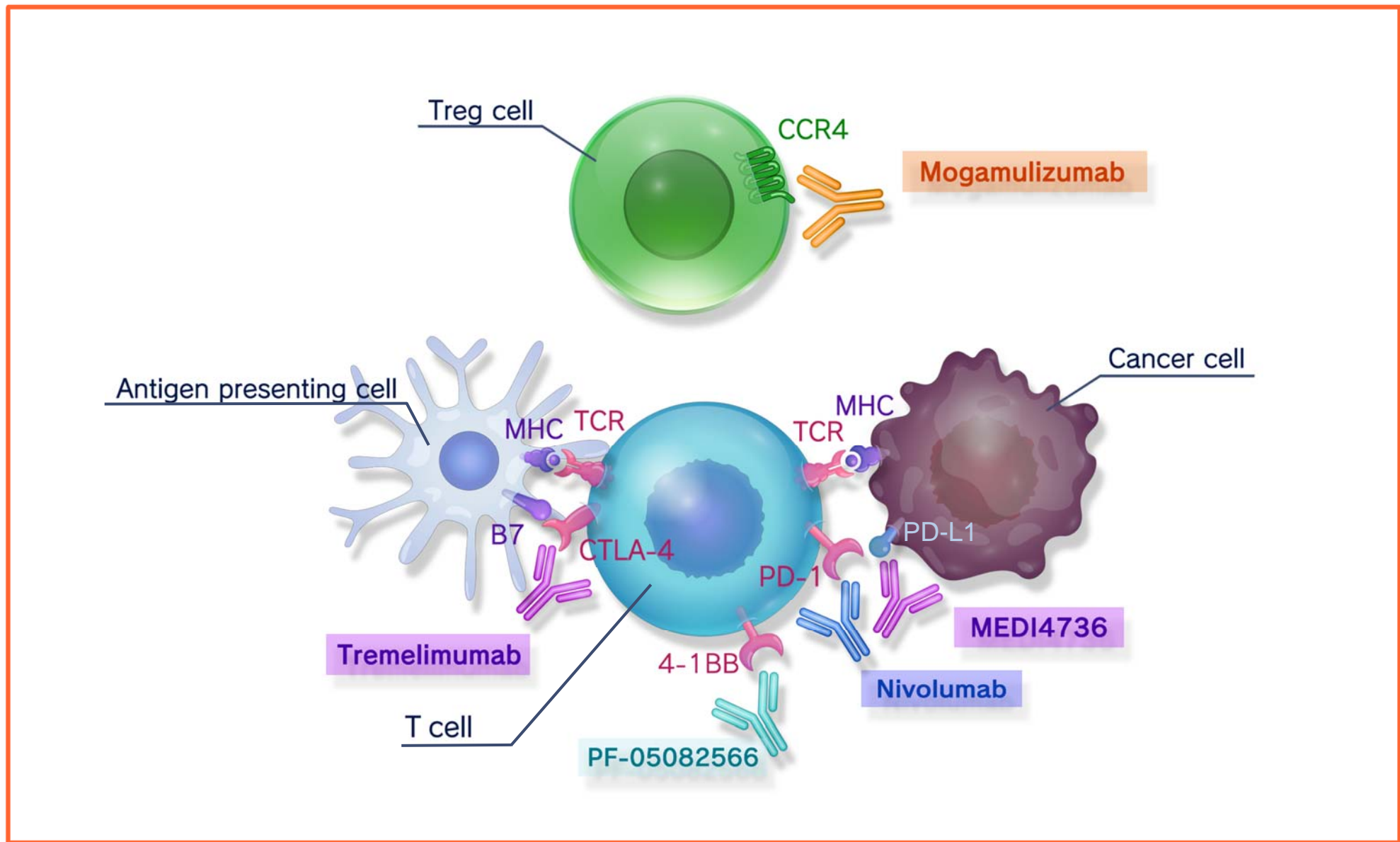
	2013年 実績	2014年 実績						
	1-12月	1-12月			増減	%	1-12月 直近予想	達成率
		ProStrakan	Archimedes	合計				
売上高	155.4	160.7	20.6	181.4	25.9	117%	179.4	101%
癌疼痛治療剤 Abstral	47.1	55.8	-	55.8	8.7	119%	54.8	102%
癌疼痛治療剤 PecFent	-	-	7.5	7.5	7.5	-	7.7	98%
化学療法に伴う悪心・嘔吐治療剤 Sancuso	13.8	14.0	-	14.0	0.2	101%	14.2	99%
その他	80.3	85.3	13.1	98.4	18.1	123%	97.1	104%
製品売上高 小計	141.2	155.2	20.6	175.9	34.6	125%	173.9	101%
技術収入 他	14.1	5.4	-	5.4	△8.6	39%	5.4	100%
売上総利益	116.5	-	-	129.1	12.6	111%	125.7	103%
販売費及び一般管理費(※1)	75.0	-	-	80.0	5.0	107%	81.8	98%
EBITDA(※2)	41.5	49.3	△0.2	49.1	7.5	118%	43.9	112%
のれん等償却額(※1)	39.9	40.3	8.9	49.2	9.2	123%	48.3	102%
営業利益	1.5	9.0	△9.1	△0.1	△1.6	-	△4.4	-

※1 販売費及び一般管理費にはのれん等償却額を含んでおりません。 のれん等償却額 = 減価償却費 + のれん償却額

※2 EBITDA = 営業損益 + 減価償却費 + のれん償却額

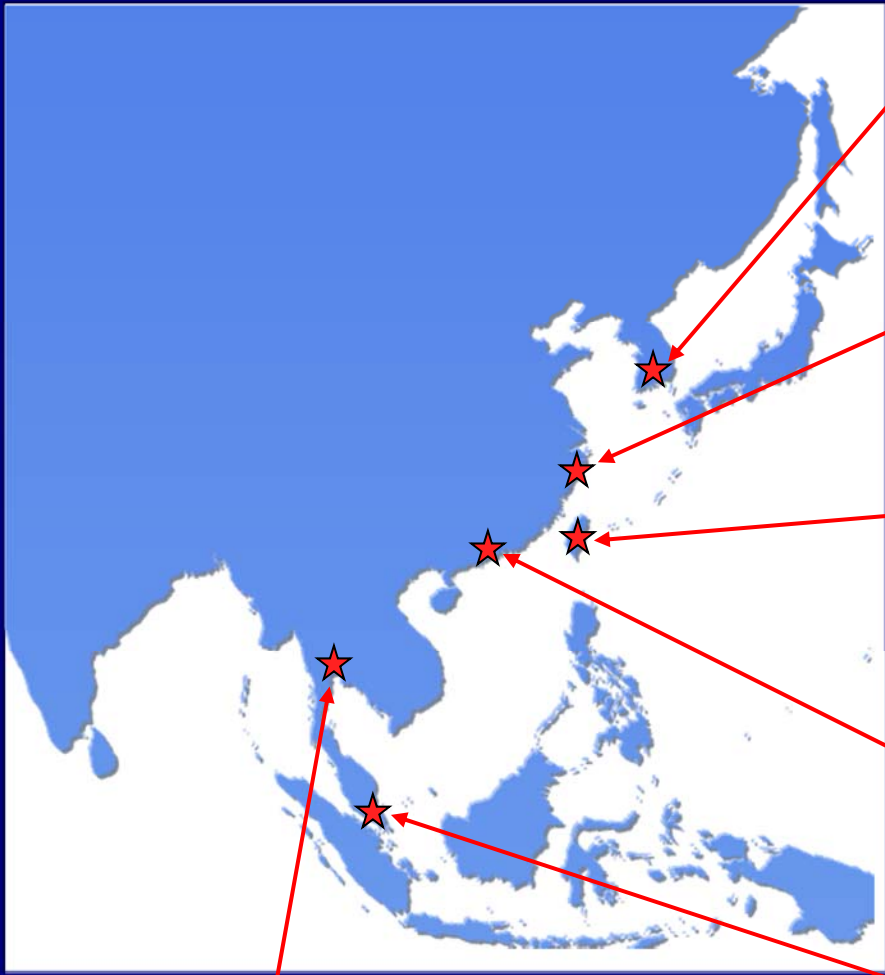
※3 2014年8月5日に買収完了したArchimedes社の業績については、2014年8月からProStrakan社に連結しております。

(記載金額は表示単位未満を切り捨て)



Name	Partner	Phase			Remarks
		I	II	III	
Tivozanib	AVEO				悪性腫瘍 (VEGF receptor inhibitor) (KRN951)
Benralizumab (MEDI-563)	AstraZeneca /MedImmune				喘息 (Anti-IL-5R antibody) (KHK4563)
					COPD POTELLIGENT®
KRN5500	DARA				神経因性疼痛
RGI2001	REGiMMUNE	Phase1/2			免疫抑制
SAR252067	Sanofi				炎症性腸疾患 (anti-LIGHT antibody)

(2015年1月23日現在)

アジア地域医薬ビジネス	連結子会社 (設立年)	MRs	売上高 (販社) 販売製品
	韓国 (1991年5月設立) Kyowa Hakko Kirin Korea Co.,Ltd.	30	50億円 Nesp,Gran,Nuelasta,Renagel, Regpara,Allelock,Leunase, Mitomycin C, Nplate
	中国 (1997年6月設立) Kyowa Hakko Kirin China Pharmaceutical Co., Ltd.	91	33億円 Gran,Espo,Coniel
	台湾 (1992年4月設立) Kyowa Hakko Kirin (Taiwan) Co.,Ltd.	20	31億円 Nesp, Gran, Regpara, Mitomycin C, Neulasta, Leunase, Sancuso, Nplate
	香港 (1993年8月設立) Kyowa Hakko Kirin (Hong Kong) Co., Ltd.	7	10億円 Aranesp, Regpara, Renagel, Nplate, Mitomycin C, Leunase, Sancuso
	シンガポール (2005年3月設立) Kyowa Hakko Kirin (Singapore) Pte.Ltd.	10	5億円 Nesp, Peglasta, Gran, Regpara, Mitomycin C, Leunase, Nplate, Sancuso
タイ (連結対象外) Kyowa Hakko Kirin (Thailand) Co.,Ltd.	(2014年12月末現在)		